

平成29年度 英語が好きになる学校づくり事業 取組報告書

事務所名	沿岸南部教育事務所	学校名	釜石市立釜石小学校	TEL	0193-22-3513
------	-----------	-----	-----------	-----	--------------

**【1. 研究主題】**

**進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成**

～必然性のあるアクティビティを取り入れた外国語活動を通して～

◇コミュニケーションとは・・・

〈聴く〉 相手が伝えたいことを理解しようとする力  
〈話す〉 自分のこと、考えたことを相手に伝える力  
〈交流〉 お互いに理解し合い心を通い合わせる事

◇必然性のあるアクティビティとは・・・

- ① やってみたいという気持ちを自然にもつような活動
- ② 児童の生活に根ざした学校や家庭の生活の一部のような活動
- ③ 相手をよく知り、さらに仲良くなるような活動
- ④ 英語を使いたくなる、英語で話したくなるような活動

**【2. 研究目標】**

- 1 年間指導計画及び単元指導計画の改善と修正を行う。
- 2 児童が積極的にコミュニケーションを図る授業のあり方を探る。
- 3 教える側の英語力をつけ、児童のモデルとなる。

**【3. 外国語活動でめざす児童像】**

高学年：英語を聞いたり話したりする活動を通して、友だちと関わることを楽しみ自己表現をしようとするとともに、単語の幅を広げ日常的な会話に慣れ親しむことができるようにする。外国と日本の文化の双方を大切にしようとする気持ちをもつことができるようにする。

中学年：英語を聞いたり話したりする活動を通して、友だちと関わることを楽しもうとする態度を育てるとともに、身近な単語に慣れ親しみ簡単な表現での問いかけに答えられるようにする。外国と日本の文化の違いや共通点に気がつくことができるようにする。

低学年：ゲームや歌などを通して、友だちといっしょに活動を楽しもうとする態度を育てると共に、簡単な単語に慣れ親しむことができるようにする。外国の文化に興味をもつことができるようにする。

**【4. 今年度のめざす教師像】**

- 研究テーマや仮説に沿った活動を展開しようとしている。
- 効果的な指導の工夫を重ね、コミュニケーションを大事にしている。
- クラスルーム・イングリッシュを心がけ、使える表現を増やしている。
- 児童と共に外国語活動を楽しんでいる。

## 【5. 活動時間の設定】

○月曜日の掃除時間と読書タイムをもらっての25分間と、木曜日朝学習の15分間を外国語活動の時間にし、イングリッシュタイム【Eタイム】と名付けた。40分にしかならなかったが、移行期ということで柔軟に考え、無理に45分にできなかった。Eタイムは1年から6年まで全学年で取り組むことにした。

### 【1～4年生】

①週2回 短時間学習（朝学習15分＋昼活動25分）×35

②総合的な学習の時間 年5～7時間

【活動型、「話す」「聞く」の音声指導中心】

### 【5・6年生】

①45分授業（年間35時間）

②週2回 短時間学習（朝学習15分＋昼活動25分）×35

【教科型「話す」「聞く」の音声指導中心、一部に「読む」を取り入れる】

### <週時程>

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
朝学習 8:10～8:25				朝 E タイム (15分間)	
1					
2					
3					
4				6年外国語	
給食・昼休み					
13:35～14:00	E タイム (25分間)				
5				5年外国語	
6					

E タイム=English (イングリッシュ) タイム

## 【6. 研究の実際】

### <研究仮説>

外国語活動において、次のような工夫をすることによって、  
進んでコミュニケーションを図ろうとする児童が育成されるであろう。

仮説1：児童が話したくなるような必然性のあるアクティビティの設定〈構想の工夫〉

仮説2：コミュニケーションにつなげるための具体的活動〈実践の工夫〉

仮説3：効果的な振り返りと評価〈評価の工夫〉

<仮説1>

「児童が話したくなるような必然性のあるアクティビティの設定」【構想の工夫】

- ①どんなコミュニケーションをさせるのか授業者がイメージをもつ。
- ②コミュニケーションを成立させるためにふさわしいアクティビティを設定する。

<仮説2>

「コミュニケーションにつなげるための具体的活動」【実践の工夫】

- ①最終ゴールを常に意識させ、目標をもたせて進める。
- ②アクティビティを Step 1・2・3に分け、段階を踏んで進める。

【釜小のアクティビティの考え方】

<Step 1> 英語の語彙や語句の音声に触れる活動

音楽やチャンツ、デジタル教材等を使って、英語の語彙や語句を聞いたり発音したりすることを通して、日本語との違いに気付くとともに、英語の音声に親しませる。

<Step 2> 会話の表現に慣れ親しむ活動

Step 1 で触れた語彙や語句を使った会話の表現をデモンストレーションや動画等で提示し、それらの会話の表現がどのような場面で使われるのかを理解させ、発音させる。

<Step 3> 自分の思いを伝える活動

Step 2 で提示した表現に十分に慣れ親しんだところで、児童にとって身近な場面を設定し、自身の思いを伝える活動に取り組みさせる。

- ③単語や表現は単調な繰り返しではなく、音楽やチャンツ、ジェスチャー等を用いて楽しく覚えさせる。
- ④勝ち負けや順位にこだわらない内容で、コミュニケーションに慣れ親しむようなゲームを開発する。
- ⑤言葉を発するだけのコミュニケーションから、気持ちを表現するコミュニケーションへと高めていく。
- ⑥積極的になれない児童に対し、適切なサポートをする。

<仮説3>

「効果的な評価と振り返りのあり方」【評価の工夫】

- ①学習の中で子ども達のよい例を見つけて具体的にほめ、特にコミュニケーション場面では、全体の活動を止めて紹介する。
- ②子ども同士、共感や自然なほめ合いができるように育てる。
- ③評価カードを工夫して、振り返りと自己評価ができるようにする。

第一時	Clear voice 「できること」を自信で表現することができるかどうか。	<input type="radio"/>	既知の日本語と英語のちがいを書きましょう ①ジェスチャーをつけて表現することができた。
第二時	Good gesture ジェスチャーをつけて友達とゲームができるかどうかです。	<input type="radio"/>	既知の言葉のおもしろさやコミュニケーションの楽しさを書きましょう I can / I can't の使い方が分り聞き相対性ができた。
第三時	Eye contact 友達とやること、できていることをたずねることができました。	<input type="radio"/>	今日はできることやできないことを伝えあう時間をたくさん取りましたね。どのようなことを考えましたか？ ② I can / I can't を I can ~ I can't ~ と使ってできたので良かったです。
第四時	Let's challenge 積極的にインプットレビューをすることができました。	<input type="radio"/>	毎週の目標 友達とできることを教えて紹介する「ほめほめタイム」をしよう！ この機会に学んだこと、気付いたことを書きましょう。 ジェスチャーをつけて、クラスで3班の人をほめることができた。また、大きな声で発表できるところも、良かったなと思った。
Lesson3 ふりかえりカード I can swim. できることを紹介し合おう。		氏名 ( )	

## **【7. 外国語活動を支えるのもの】**

### (1) 英語運用能力研修

- ① ALT の来校日に合わせて月一回程度、英語の学習会を行う。テーマは、ALT と相談の上決めるが、クラスルームイングリッシュ他、細かいことについては任せる。
- ② 水曜日の職員終会の最後に、研究部英語中核教員の計画の下、簡単な挨拶や会話の練習をする。(5分程度)

### (2) 英語環境づくり

- ・外国語活動において用具や環境の整備は特に大切である。周辺が整ってこそ、子どもたちも教員も安心して活動ができる。
  - 英語 d a y (月・木) の設定
  - 教材教具の確認と収納の工夫、新しい教具の補充と制作
  - 英語ルームの充実
  - 廊下掲示の工夫

### (3) 学級力向上の取組

- ・「自分たちで学級をよくしよう、何でも言い合える学級をつくろう」という全校の取り組み。外国語活動のコミュニケーションを進める上で特に重要と考える。

#### ■学級を支える5つの力

- |   |                             |
|---|-----------------------------|
| 1 | 達成力：目標をやりとげる力 (目標、改善、役割)    |
| 2 | 自律力：話をつなげる力 (聞く姿勢、つながり、積極性) |
| 3 | 対話力：友達を支える力 (支え合い、仲直り、感謝)   |
| 4 | 協調力：安心を生み出す力 (認め合い、尊重、仲間)   |
| 5 | 規律力：きまりを守る力 (学習、生活、校外)      |

## **【8. 成果】**

- ◎コミュニケーションにつながる活動を多く取り入れたことで、英語に対する抵抗が少なくなった。
  - ・本校独自の計画に沿って、1年生から段階を踏んで活動を行った結果、自然に英語に親しむようになった。2年目の今年は児童の様子からそれがより感じられた。
  - ・コミュニケーションを充実させるために単元の最後に 魅力あるアクティビティを設定した。チャンツやゲーム等の活動すべてがコミュニケーションにつながるように実践を行った結果、話すことへの抵抗が小さくなり、活発なコミュニケーションができた。
- ◎カリキュラムを全校体制で整えた結果、どの学年でも実践することができた。
  - ・授業時間ではない朝学習と昼活動にイングリッシュタイムを設定したことで、全校が揃って学習を進めることができた。
  - ・1～4年生では昼活動の年間指導計画のみを立て、朝活動は昼活動の補充であるとの考えで実践をした。縛られ過ぎず、余裕をもって柔軟に指導に当たることができた。
  - ・5. 6年生の中心はあくまでも外国語活動の授業だととらえ、朝活動と昼活動はそれを補うものとした。覚えにくいような単語や文章は、この時間を使って練習をした。

◎「外国語活動」を肯定的に捉え、会話に楽しさを感じる児童が増えた。

◆「外国語活動の時間が好き」と回答した児童生徒の割合(%)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6
H28	93	90	100	85	89	89
H29	100	97	90	80	90	89

◆「友達と会話するのが楽しい」と回答した児童生徒の割合(%)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6
H28	96	95	96	95	77	89
H29	100	100	90	92	95	89

## 【9. 課題や今後の方向性】

①言語活動をより一層充実させる。

- ・コミュニケーションの内容の吟味とそれにつながる活動の充実（すべてがコミュニケーションにつながるように）

②指導計画を修正する。

- ・5.6年に「書く」「読む」学習を取り入れ、3.4年 5.6年の表現の一部を取り入れる。

③引き続き教員の英語能力向上研修を行い、英会話を中心とした能力の向上を図る。

- ・ALT等を活用した研修会の実施
- ・英語能力向上研修（毎週1回職員終会）

④経年比較や追跡調査等による効果分析

- ・意識調査の継続
- ・パフォーマンス評価を取り入れ定着を確かめる。

研究テーマ「進んでコミュニケーションを図ろうとする児童」を育成するために釜石小では、仮説を立て外国語活動の実践を積んできた。ほんの1年半の実践であるが、子どもたちは活気ある活動や楽しいコミュニケーションができるようになってきた。しかし、私たちはこれを「外国語活動の成果」ということだけで終わらせたくないと考えている。

相手の話をうなずきながらじっくりと聞くこと、自分の思いをわかってほしいと身振り手振りで一生懸命に話すこと、楽しく活動的な態度で学習すること、はっきりとした声で意見を言い合うことなど、他教科でも実践できることが多くあるはずである。「外国語活動の時間だけのこと」と子どもたちが思っていることを他教科の時間にもどんどん広げていきたいと考えている。

それが「研究」ということだと思ふ。